

2024年4月24日

全国の教会・伝道所の女性会のみなさま
教会に集うみなさま

日本バプテスト女性連合
6・23「沖縄（命どう宝）の日」推進委員会

「祈り便」第64信（4月～7月）のご案内

わたしたち日本バプテスト女性連合が、総会において6月23日を「沖縄（命どう宝）の日」として平和を祈る時としたのは今から約20年前のことです。そのきっかけは、2004年に沖縄で開催したアジアバプテスト女性連合大会。三バプテストの女性たちが協働して企画、準備していく出会いの中で、沖縄の負わされてきた苦悩の歴史、とりわけ女性たちが強いられてきた犠牲を知ると同時に、今まで知らなかったことを悔い改める時となりました。また、那覇新都心教会からの提案を受け、総会において満場一致で採択されたことは、皆で共に平和を祈るものとなりたいたいという願いであったと思います。

沖縄の歴史と現実を知ること、わたしがどこに立っているかを知らされることです。わたしの安全は、意図しないままに沖縄の人びとの犠牲の上に成り立っています。「国」を守るためには沖縄の基地は必要だという意見は、そのための犠牲は仕方ないという多数派による少数派への暴力であり差別です。そして、無関心はその状態を容認することであり、沖縄の人びとを苦しめています。

その現実には足がすくむ思いです。しかし、沖縄の平和学習ツアーで出会った方から、「共に祈ってくれてうれしい」と声をかけていただいたこと、沖縄バプテスト連盟女性会の方がたとのあたたかい交流に支えられて、共に平和を求め続けていきたいと思うのです。

主の平和は、誰をも犠牲にしない平和です。それは、力による平和ではなしえません。今、ウクライナで、パレスチナで、世界中で行われている戦争、紛争は、軍事力という力で解決しようとするものです。そこで犠牲になるのは人びとです。避難している人びとの姿、爆撃された街や畑の様子は、その回復がどれほど困難か、どれほどの時間が必要なのか、想像できないほどです。

今、沖縄では、辺野古の新基地建設が進んでいます。島々にはミサイル基地が次々と建設され軍事演習が行われています。「新しい戦前が始まった」と言われている危機感があります。自衛隊には住民を守る任務はありません。基地のある所が真っ先に標的にされます。いかに戦争で被害をなくすかではなく、戦争をしないことが最もなすべきことです。79年前、多くの住民を犠牲にした沖縄戦を悔い改め、もう二度と沖縄を戦場にさせないことに一致して祈っていきたく思います。

そのために知ること、祈ること、そして出会って共有することが大切だとあらためて思わされています。そして平和のために何ができるかみなさんと共に考えていきたく思います。